

AAP13秋冬展

10社がODM提案 円安で受注量急増



左がベトナムのコート、
右がミャンマーのパンツ

アジアに進出した縫製企業を中心に「アジア・アパレルものづくりネットワーク(AAP)」は3月1日まで、東京都渋谷区のお台・オア・メリット・プランニングの展示ホールで「AAP P2013秋冬展示会」を開いている。縫製工場など10社が参加し、約80点のオリジナル企画商品をアピールする。AAPは工場・メーカー30社を含め、会員数は現在43社。和田博事務局長は「第2回目の今回は商談を重視。ベトナム、

ベトナム、

バンクラテシユ、ミャンマー、カンボジア、ラオスの工場を縫製。企画は欧州市場情報を取り入れた「ODM提案」という。昭和インターナショナルはタイ生地(コットン67%・ポリエステル33%)をベトナムで縫製したコートを提案。トワロンドはインドネシア生地(コットン55%・ポリエステル42%・ポリウレタン3%)をミャンマーで縫製したパンツを披露し、オールドシアのモノ作りを進めていることを見せる。

昭和インターナショナルは1996年9月、シヨウワヘトナムをパートナーで稼働させ、月

1万5000〜2万枚をフルアイテムで生産する。年間300〜400アイテムを切り替え、多品種・小ロット・短納期生産を特徴とする。工賃は上がっているが、仕事量は多い。南のメコン地域に第2工場を検討しているという。

トワロンドのミャンマー工場は昨年11月に稼働。月産5万本の婦人ボトムを生産する。進出に当たりのミャンマーか、カ

ンボジアか迷ったが、人口の多さでミャンマーにした。円安となり、今年に入って注文が殺到している」

副資材の吉岡は11年4月にタイ支店を設置した。タイの地理・税制を利用しながら、東南アジア圏の縫製工場に対するリードタイムを短縮化するため、現地調達、現地生産・加工を拡充してコストダウンを支援している。